

箴言4章23節 「いのちの泉 - 心」

1A 心という泉

1B 霊の王座

1C 内側からの汚れ

2C 泉から湧き出る清め

2B 口、手、足の働き

3B 外からは変えられない限界

2A 心の見張り

1B 方法

1C キリストによる血

2C 神の言葉

3C 御霊の満たし

4C 祈り

2B 内容

1C 全き平安

2C 情熱

3C 優しさ

本文

私たちの聖書通読の学びは、箴言に入っています。今日は箴言の4章から、午後に7章まで一節ずつ読みたいと思います。今朝は4章 23 節に注目してください。「**力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。**」この箇所は、20 節から 27 節にある、自分の体の全てを使って、主に満たしていただく、自分自身を捧げる勧めの中に出てくる言葉です。ローマ人への手紙に、「あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。(12:1)」という勧めがありますが、それを、もっと具体的に分かり易く書いているところです。耳を父の言う訓戒に傾け、目を向け、そして口から偽りを除き、足は悪から遠ざかりなさいと、自分の体の器官の全てを使って主に満ちることを教えています。

その中でも心は、もっとも気を使って主の御霊の中に留めておきなさいという命令です。新共同訳では、「**何を守るよりも、自分の心を守れ。**」となっています。自分の心を最優先事項として見張っていなさい、という命令です。

1A 心という泉

1B 霊の王座

心と言うのは不思議なものです。ある人は、「心は、人の霊の王座に位置し、思いは魂の王座に

ある。」と言いました。私たちが思いの中で何かを信じて、では実際にその思いによって行動に移せるかという、できません。思いは変わっているかもしれませんが、心が変わっていないからです。けれども、心によって何かを信じれば、理屈抜きでその信じたことに基づいて動くことができます。それゆえ、心は人の霊の中で王座を占めており、心で信じたことが私たちの内から出てくるからです。

心は例えると発電機のようなものであり、あるいは貯水池のようなものでしょう。私たちの思いは、その源泉を汲み出すポンプかもしれませんが、心にあることが出てくることによって、初めて私たちを生かします。

1C 内側からの汚れ

私たち人間の問題は、その心から出てくるのが汚い、悪い思いだということです。イエス様が、弟子たちに教えられたことを思い出してください。弟子たちが手を洗わなかったことを、パリサイ人たちが責めたのですが、イエス様は人々に、「外側から人にはいって、人を汚すことのできる物は何ともありません。人から出て来るものが、人を汚すものなのです。」と言われました。弟子たちに個々の意味を解き明かし、こう言われました。「マルコ 7:20-23 人から出るもの、これが、人を汚すのです。内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。」心の中から、このような汚水がどんどん出てきてしまいます。

私たちは、何とか他の方法でその問題を解決しようとしています。自分の言葉を矯正する、行動を正してみる、また自分の置かれている環境を変えてみれば、自分が変わるかもしれないと思います。ところが、あまり時間を経ずして化けの皮が剥がれます。

八年ぐらい前に、中国で話題となった山がありました。環境問題が深刻になっている中国ですが、驚くことに山のハゲているところに、緑色のペンキを塗って、緑化したというニュースです。写真を見たら、本当にそれをやっています！興味深いことに、



日本の方がそこを七年後に訪れたそうですが、そのペンキは随分と剥げ落ちていました。私たち日本人は、これを笑ってしまうかもしれませんが、けれども、心の問題に当てはめると決して笑えません。「心のハゲているところを、ペンキで塗ってごまかそうとしている。」ということ、ひっきりなしにやっています。ごまかせていると思うのですが、あまりにも明らかなのです。

そして、心は汚物をどんどん排出するのですが、厄介なことに外側から汚い物を中に取り入れることができます。目を通して、手で触ることによって、足を運ばせることによって、心に汚れをさらに取り入れることができます。使徒パウロは、「自分の肉のために種を蒔く者は、肉から滅びを刈り取」と言いました(ガラテヤ 6:8)。午後に箴言を学ぶ時に、見知らぬ女のところに行ってはならないという戒めをたくさん読みますが、ポルノによって取り入れた汚れた画像は何年経っても、それを思いから取り除くことができません。女性にもこれは真であり、一度肉体関係を持った人が、相手の男がどんなに酷い奴でもなかなか離れることができなくなります。

2C 泉から湧き出る清め

しかし、私たちには福音、良い知らせがあります。この汚染された心をきれいに洗い清めてくださる方が来られたことを教えています。人は内側にあるものによって汚れますが、同じように主なる神は、私たちの内側に永遠の命に至る泉を与えてくださいます。主は、サマリヤの女と井戸の水について話しておられた時に、「わたしの与える水」に話題を切り換えられました。そして言われました。「ヨハネ 4:14 しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」

神の御霊による、霊の新生と刷新です。私たちがどんなに努力して、取り除こうとしても取り除けないその墮落した心は、主の御霊の一方的な働きによって変えられます。「テトス 3:5-6 神は、私たちが行なった義のわざによってではなく、ご自分のあわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました。神は、この聖霊を、私たちの救い主なるイエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。」そして、自分がどんなに汚れたことを行なった者であっても、御霊は私たちを洗い清め、全く新しくしてくださいます。「1コリント 6:9-11 あなたがたは、正しくない者は神の国を相続できないことを、知らないのですか。だまされてはいけません。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そしめる者、略奪する者はみな、神の国を相続することができません。あなたがたの中のある人たちは以前はそのような者でした。しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。」なんとすばらしいのでしょうか、どんなに忌まわしい生活をしてきた、この汚れをどうすれば直せるのか、そのどん底に生きていたとしても、御霊は私たちを、主イエス・キリストの御名によって、洗い、聖なる者とし、義と認めるようにしてくださったのです。あなたは、神の恵みによって救われました。

2B 口、手、足の働き

先ほど話しましたように、心がいのちの泉であり、そこから命が出てくる時に口に、手に、そして足にその影響が現われます。口というのは、その心という倉庫から引き出すものです。イエス様は、「良い人は、その心の良い倉から良い物を出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を出します。なぜなら人の口は、心に満ちているものを話すからです。(ルカ 6:45)」と言われました。私たちは、同じ言葉を語るにしても、その単語が同じでも、その心にあるものが実際は伝わります。「ばかやろう」

という罵りを言ったとしても、もしそれに良い心があるならば、それは人の心を癒します。そして優しい言葉であったとしても、悪意があるならばそれは剣と化します。「詩篇 55:21 彼の口は、バタよりもなめらかだが、その心には、戦いがある。彼のことばは、油よりも柔らかいが、それは抜き身の剣である。」

そして「手」というのは、自分の行動を指しています。実際に自分の手で何を行なっているのか、その行いを見れば、その人の心の状態は明らかにされています。そして「足」は、どこに動いているのか、その人の歩いているところです。どんなに心が神に捧げられていると言っても、その足が神に関わることではない、その他のところに行っていることが大半であれば、本当の心はその足が運ばせているところにあるのです。

3B 外からは変えられない限界

世が行おうとしている解決法は、そうした心の表れにしか過ぎない外側の行為を正すことだけのものとなっています。環境を変えればよい、であるとか、教育が必要であるとか、そして新しい動機付けが必要であるとか、外側の要因を導入すれば何かが変わると思います。それは、旧約時代に石の板に書かれている掟を守ろうとしたけれども、できなかったイスラエルの民と同じなのです。それで、新しい契約を神は与えられたのでした。それは、律法を石の板ではなく、心に板に書き記すというものです。「エレミヤ 31:33 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。…主の御告げ。…わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」そして、イエス様はこの新しい契約の印は、ご自身の流される血だと言いました。主の流された血によって、御霊によって神は私たちの心を変えてくださいます。

2A 心の見張り

そこで、私たちは次の命令に心を留めないといけません。「**見張って、あなたの心を見守れ。**」心をいかにして見張り、見守っていくのか、主の御霊にあって清められたその新しい心をいかに保っていることができるのか、これが私たちが何にも増して行っていないなければいけないことです。言い換えれば、「いかに主の前にあって生きるのか？」ということに集中することです。そうすれば、生活に関わるあらゆる事は、その心から出てきますから、それに任せればよいのです。

1B 方法

1C キリストによる血

心を見張り、見守るための第一は、もちろんキリストの流された血潮を受け入れることです。「1ヨハネ 1:7 しかし、もし神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。」主との交わりをしている時に、絶えず、御子イエスの流された血が私たちの心に注がれています。そこに神の聖さが流れ出します。そして、神の愛が注がれます。私たちが、兄弟また姉妹を愛せない、また隣人を愛

せないという問題に直面したら、それは自分の努力の足りなさではなく、自分の心に神の愛が注がれていることを悟っていないからです。周りの人を非難するのではなく、横の関係は必ず縦の関係から来ているのであり、縦の関係は必ず、十字架に付けられたキリストに自分が頼っているかどうかにかかっています。

2C 神の言葉

そして、私たちは第二に、この心を神の御言葉を聞くことによって絶えず守ることができます。「ヨハネの 15:3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです。」神の御言葉は私たちの心を洗い清めます。それを、信仰をもって聞いている中で、清めてくれます。ある牧師さんがいつも言っていることは、「朝起きたら、初めに見る文字や言葉が、聖書でありたい。」というものです。スマホを手にしても、LINE などの言葉、ニュースなのではなく、御言葉が出てきているか？ということです。そして、私たちの教会では数多く聖書の学び会を持っています。それは平日に、何とかして御言葉を聞いて、魂を清める時が与えられるためです。

3C 御霊の満たし

そして第三に、御霊に満たされることです。「エペソ 5:18 また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。」神の御霊に満たされる、というのはどういうことでしょうか？私たちは既に、神がご自分の憐れみによって、イエスの御名を信じる者に聖霊の注ぎを心に与えてくださった約束を見ました。その、神の命の注ぎが絶えず行われて、それで溢れて、自分が満ちるだけでなく、周りの人々が認めることができるくらい影響力を与えていることです。イエス様のことについて、ただ聞いて、頭で理解しているのではなく、本当に生きていることを体験することです。そして、イエス様の歩まれた道をどうして自分も付いていけばよいのか、いつもできなくて苦しんでいるのではなく、イエス様がここにおられると知って、その喜びの中で主が歩まれているところに自分もいつの間にか歩んでいます。みなさんの心の奥底から、生ける水の川が流れ出ているでしょうか？もしそうでないなら、どうか聖霊を求めてください。

4C 祈り

そして私たちが心を見守り、見張る方法の第四は、「祈る」ことです。「詩篇 139:23-24 神よ。私を探り、私の心を知ってください。私を調べ、私の思い煩いを知ってください。私のうちに傷のついた道があるか、ないかを見て、私をとこしえの道に導いてください。」祈りによって、私たちは自分の知らなかった自分の姿を主が見せてくれるようになります。それにしたがって、罪の言い表しをして、罪を言い表すなら主は正しく真実な方ですから、その罪を赦し、すべての不義から私たちを清めてくださいます。このようにして、私たちの心が主と一つになっており、そこからのちの泉が湧くのです。

2B 内容

私たちの心は、そこでどうなっていればよいのでしょうか？私たちは、とにかく主の前における自

分の心のあり方に注目していればよいです。ある牧師さんがこう言っていました。「人からの好意、あるいは悪感情、そのどちらにも心を奪われる必要はありません。人に対しては誠実であるべきです。しかし、何よりも神さまの前に自分はどうか、ということが重要です。」私たちが神さまの前にいる時の心は、どうなっているのか？

1C 全き平安

預言者イザヤは言いました。「26:3 志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。」心が平安を保っているかどうか？であります。私たちは、自分の責任を果たすことは大切です。けれども、自分の責任が先行していくと、自分が負うべきではない重荷を負っていくようになります。すべてのことは主によって起こっている、悪いことも主の許しがあって初めて起こっている、ということを知るのは大事です。イザヤの言った「志の堅固な者」とは、すべてを主に委ね切った姿であります。自分を守るのに精いっぱいになっているか、それとも主が自分を守っておられることに安心しているか？心が平安になっているかどうか、確かめてください。

2C 情熱

そして心は燃えているでしょうか？「勤勉で、怠らず、霊に燃え、主に仕えなさい。(ローマ 12:11)」と、情熱的に主に伝えることをパウロは聖徒たちに勧めています。エマオの途上で復活のイエス様に会った弟子二人は、「ルカ 24:32 道々お話しになっている間も、聖書を説明して下さった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。」燃えているその心を、保っているでしょうか？もし、その情熱が何か薄れている、何となくクリスチャンしているけれども、それ以上、前進している気がしない。それとも、主が何かをしておられる。神の国で、また教会で、そして個人の生活で何かをしておられる、その神様のされていることを追っていくことで夢中である。アイドルや人気俳優の追っかけならず、主なるイエス様の追っかけをしているでしょうか？

3C 優しさ

そして、心が柔和になっているかどうか、見守っててください。「神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしりなどを、いっさいの悪意とともに、みな捨て去りなさい。お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦して下さったように、互いに赦し合いなさい。(エペソ 4:30-32)」主によって、自分は罪が赦された者だという感動の中で、心が優しくなっているでしょうか？それとも、人につまずいて、それで赦せない心、人にいらだたしくなり、その心に今、読んだような悪意が入り込んでいるでしょうか？どうか、これらを捨て去る勇氣を持ってください。そして、罪の赦しによって、神の聖霊に満たされてください。

私たちは、この世に住んでいるということは、つまずきは避けられないものです。世の終わりの徴の一つが、「多くの人の愛が冷える」であります。それは、人が偽りを言っているのを聞いて、怒

り、いらだち、いつしか心が固くなっていきます。また、約束を破っているのを見て、心を痛めるのではなく、なるべく感じないようにします。キリストにあって人の罪のために泣くのではなく、痛まなないように冷たくしておくのです。しかし、それでも主が、ノアの時代の人々が悪に傾いているのを見て、心を痛めたように痛めます。キリストが罪人の反抗を忍ばれたように忍耐します(ヘブル 12:3)。その中で、御霊が神の愛を私たちの心に注ぎ続けてくださり、こころは柔らかいまま保つことができるのです。

もしかしたら、私たちは、きちんと教会に通い、イエス様の名を否んでいないかもしれませんが。そして、何が正しいことでそうでないかもわきまえているかもしれませんが。しっかりと忍耐しているかもしれませんが。けれども、大切な戒めを忘れているかもしれません。それは、「初めの愛」です。エペソにある教会は、初めの愛から離れてしまったという叱責をイエス様から受けています。だから、悔い改めて、どこから落ちたかを思い出して、初めの行いをしなさいとイエス様は命じられました。では、悔い改める時を持ちましょう。